

本組合は毎年度の大會に於て、乗組員の生命保安の立場より海難防止と船舶の安全確保の爲に、政府並に船主をして凡ゆる最善の施設をほどこさしむべく決議し又之に對して不斷の努力を續けて來た。

この結果、政府に於ても愈々船舶安全法を制定することとなりその草案審議の爲、本年度に於て選信省内に船舶安全法案要旨協議會の開催を見るに至り本組合より、代表者を出席せしめ海上大衆の意向を反映せしむべく努力した。

更に本年度末に於ては海難防止を目的として本組合長を委員とする臨時海難防止調査會が設置された。該會議は三月十四日より十六日迄選信省内に於て開催され、委員濱田組合長の努力の結果海上大衆の希求を反映する幾多の希望決議が可決された。港灣を生命とする都市に於て港灣施設は其の一物的要素たるに過ぎない、眞に重要な人的要素たるべきものは海員それ自身であるが故に、全ての港灣都市は海員の爲に公營海員ホームを建設すべしとは本組合が創立以來熱心に主張して來つた處である。

この組合の熱心なる主張を容れて大阪、戸畑、門司等の港灣都市に於ては既に公營海員ホームの建設を見たのであるが、本年度に於ては更に爾他の港灣都市に公營海員ホームの建設を期すべく小樽、神戸の兩市當局に對して抗議的陳情書を呈出してその實現につとめた。

その結果神戸市に於ても昭和七年度中に約二十五萬圓の經費を投じて公營海員ホームを建設することを容認し近く市會の協賛を経ることとなつた。

内閣の更迭毎に廣範圍に亘る地方官の大更迭を行ふ政爭の激化が、國民生活に及ぼす弊害の極めて重大なるを憂慮し、組合は一月十三日內大臣、宮內大臣、侍從長に地方官身分保證について陳情書を呈出した。

國際部報告

ITF加盟によりて組合國際部の活動は年々擴大されて來たのであるが、本年度に於ては特にITF總主事エドフィンメン氏の來朝を迎へ、ITF本部との間に更に緊密なる聯繫を保ち組合の所在を國際的に確立し、我海員の福利を増進すべく敏活なる活動を續けた、しかも世界的經濟恐慌の深刻化につれて資本の攻勢は日に熾烈となり、その必然的結果として、勞働條件の低下、失業群の續出等によつて未曾有の苦難に當面した我國無産大衆の階級戦線の統一強化を計ることは、單にその國內的利益のみならず、同時に全世界無産階級の國際的聯繫を促進する所以のものなる事を痛感し、組合は本年度に於てその實現に向つて最善の努力をつくしたのである。

しかしながら、我國全無産階級の全國的陣營の統一は早急に實現し難き事情の存するに鑑み、まづその端初的形態として我國無産階級の前衛たる組織勞働者の國內的戦線統一機關の確立を期した。

以上の目的を以つて本組合は全力をつくして奔走した結果、その間、幾多の困難なる事情に當面したが遂に六年六月廿五日我國に於ける最も有力なる勞働團體たる本組合、日本勞働總同盟、全國勞働組合同盟、日本勞働組合總聯合、官業勞働總同盟、日本勞働總聯盟、海員協會、日本造船勞働聯盟の八團體の加盟を得て、我國に於ける最初の且最も有力の勞働戦線統一機關たる日本勞働俱樂部の結成に成功したが、更に十二月に至り、全國港灣従業員組合聯盟、日本製鐵勞働組合聯合會も亦、俱樂部に加盟するに至り、茲に日本勞働俱樂部は十團體二十五萬人の組織勞働者を傘下に抱合して勞働階級の強大なる全國的中心勢力となつた。